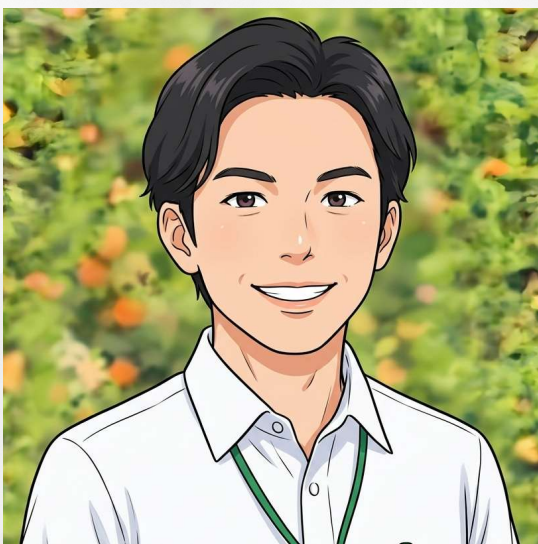


## 富山県公衆衛生医師インタビュー

公衆衛生医師ってどんな仕事？どうやったらなれるの？

実際に県で公衆衛生医師として働かれている、健康課 がん対策推進担当の 城 泰輔 先生にお話をお聞きしました。脳神経外科医として10年近く臨床の最前線で活躍された後、公衆衛生医師の道へ進まれた先生です。



城 泰輔 先生

富山県出身。  
2016年富山大学医学部卒業。  
初期研修を富山大学附属病院で行った後、  
富山大学脳神経外科入局。大学と公的病院  
で脳神経外科医師として勤務し、  
2025年富山県に公衆衛生医師として入庁。

### ーまずは臨床の最前線に飛び込みたいー

公衆衛生医師という仕事への関心は学生時代からありました。どうやったら世の中が良くなるかを考えたとき、仕組みづくり、ルールづくりという仕事に興味を持ったのです。ただ当時は、周りにやっている人もいませんし、「厚生労働省に入りませんか」というパンフレットくらいしかなく、あまりに遠い世界に感じられたんです。富山県で働くというようなイメージも当時は持てませんでしたし、情報も少なかった。脳神経外科、脳の疾患にも興味があったので、まずは臨床の最前線に飛び込みたいという思いから脳神経外科に進みました。

卒業後は、主に富山県内で、大学病院や公立病院など、色々な病院で働いてきました。県外の病院に勤務した経験もありますが、基本的には地域医療をやってきました。その中で、世の中の情勢も変わってきました。医療費が逼迫する中で、過剰な医療、手厚い医療をすることが必ずしも正解ではないという雰囲気が社会全体に広がってきて。そうした報道に触れながら、今後さらに制約が生まれるのではないかと、本当はもっとできる治療があるのに、お金や人手が足りず提供できなくなってしまうのではないかと、という漠然とした不安を現場で感じるようになったんです。枠組みの中でなんとか最善を尽くす、というのが当時の仕事の仕方でした。

ちょうどそのタイミングで公衆衛生医師の募集や仕事内容についての情報が、目に留まりました。富山県でもパンフレットが作られていて。学生時代の思いに立ち返るような形で、現場の医療を支える仕組みそのものをきちんと考えたいと思っていた私は、「少し興味があるので詳しく教えてください」と医務課に電話をしました。その後、メールのやり取りをして、公衆衛生医師の先生と面談させていただきました。

# 富山県公衆衛生医師インタビュー

## —見学後、悩んで決めた道—

面談前は、公衆衛生は難しく、優秀な人でなければできないのではないかと先入観を持っていました。でも実際にお話を伺うと、業務に携わりながら勉強していくことができますし、様々な分野出身の医師が色々な経験を持って入ってきていることも分かりました。自分と同じ年代の医師もいると聞いて、安心感も得られました。

実際に入庁したのは、その数年後になります。生活が大きく変わることになるので、家族とも相談する必要がありましたし、臨床医として担当していた患者さんを今後どうしていけばいいのかという葛藤もありました。しばらく時間を置いて、色々考えたうえで医局にも伝え、入庁したという経緯です。

## —県だからこそ見えるデータがある—

入庁してみて、県が集めている医療データに驚きました。例えば脳卒中に関しても、県は症例を集積しデータベースを構築していますが、これまで自分は結果しか見たことがなく、データそのものを見ると、こんなに細かく情報が集められているのかと気づかされました。1つの病院では、その周辺地域の状況しか分かりませんし、データも持っていません。それを取りまとめて、みんなに分かりやすく見せていくことで、今後のあり方をみんなで考えてもらえるようになる。今年度、脳卒中のデータをまとめて会議資料などに出してみました。以前お世話になった先生に、「いいんじゃないか」と褒めていただけたのは、正直嬉しかったですね。

専門的なデータにメッセージを加えて、それを誰に伝えるか。病院や専門家に伝えることはもちろんですが、地域の一般の方々にも分かりやすく伝えていかなければなりません。ポスターを作ることもあると思いますし、ホームページに情報を掲載している先行事例もあります。100万人規模に一気にアプローチできるというのは、県にいるからこそできるスケールです。自分の考えや意思が少し混ざっている部分もあるので、そこにやりがいを感じます。「自分がこれに関わったんだ」という思いを持てますね。



担当としてかかわった市民公開講座の一場面

# 富山県公衆衛生医師インタビュー

## —行政の方々は皆さん優しい—

行政の一般職の方々は、皆さん優しくて、本当にありがたいです。専門家ではないのに、医療のことを一生懸命勉強して資料を作ってくださっている姿を、本当に尊敬しています。こういう方々と一緒に仕事をしている中で、自分も頑張ろうと思っています。

## —家族への不安が軽減され仕事に集中できるように—

ワークライフバランスについては、充実しています。会議で夜に仕事が入ることもありますが、基本的には決められた時間内で集中して取り組む形式になっているのは、すごくありがたいです。小さい子どもが2人いるので、土日もしっかり子どもとの時間が取れるようになったのも嬉しいところです。家族との関わりは明らかに増えたと思います。また、子どもが体調を崩しても、職場の理解があるので休ませてもらえます。家族への不安を抱えたまま仕事をするのはしんどいものですが、その不安が軽減されたことで、むしろ仕事に集中できるようになりました。

## —色々な分野に関われる可能性にワクワクする—

この仕事は色々な分野に関われる可能性を持った、幅の広い仕事だと思います。脳外科の時は脳疾患を中心に突き詰めて勉強していましたが、今はがんのことを学んだり、糖尿病のことを学んだり、感染症についても関わることもあります。今後どの分野で仕事ができるのか、そこでどんな色々な人との出会いがあるのか、ワクワクしています。今はまだ入ったばかりですが、色々な未来への可能性を感じ続けています。将来の夢と言われると難しいですが、一つ一つ取り組んでいけばいつか到達できるものがあるんじゃないかという思いもあります。



職場では意見を出し合い、検討を深めています

富山県では、公衆衛生医師を募集しています。公衆衛生医師の魅力や一人一人の思いが見えるような記事をお届けしていきたいと思っています。